

【ご挨拶】

震災では一人として亡くならず、一軒の倒壊もなかった。「私達はこの災害を3.11ではなく3.12と言う」と語ったのは、都路を案内してくれたホットハウスの渡辺さんだ。

今年4月に避難解除になった都路地区は、晩秋の光景に黒い袋が点在しなければなんと美しいことか・・・三年間の空白 ボランティアも住民もいない・・・20キロ圏 30キロ圏の問題からの地域社会の亀裂。全てがこれからのスタートだ。「元通りになっただけでは都路地区は消失するだろう。」お会いした方々の共通した重い言葉の意味を伝えたい。災いをお人形さまに託し、ニッパッパの都路地区にまた火の灯ることを願って。

【本文】

石巻訪問と前後して、福島県田村市の小さな地域に残っているお人形様の衣替えが、部会で話題に出たのは2年前でした。高さ4メートルもあると聞いて、現地へとなり、昨年4月の第3日曜に伺いました。雪が降った後のため、風が冷たい二日間でありました。

一見何もなかったかのように見える緑豊かな里山、田村市は、原発20、30、40キロ圏内のそれぞれの地域を抱えています。避難、仮設住まい、除染、風評被害と声に出せない苦しみの中でも、地域の行事や祭りは淡々と行われています。本日は、福島県田村市で、文化に携わるお二人と、避難を余儀なくされ復興に率先して携わっている方から、3.11後の地域の様子を伺います。

渡辺辰夫（ワタナベ タツオ）

福島県田村市都路でフレンチレストラン・ホットハウス経営。震災後船引町に移転。都路商工会会長として町の復興に尽力。

逸見克己（ヘンミ カツミ）

福島県郡山出身。考古学協会会員として主に田村市の遺跡調査に従事。田村市役所勤務。郷土歴史編纂。

上遠野伸一（カトオノ シンイチ）

福島県田村市船引町出身。田村の魅力を伝えようと郷土写真家として活躍。田村市教育委員会勤務。広報写真多数。

吉野ヨシ子（ヨシノ ヨシコ）

福島県田村市船引町出身。千葉県在住。田村市夢大使。小学校教師を経て金属彫刻に携わる。情報文化部会メンバー。

坂上直哉（サカガミ ナオヤ）

情報文化部会部会長。美術家。アートワーク空主宰。

露口典子（ツユグチ ノリコ）

田村座談会司会進行・情報文化部会副部会長。文化環境プロデューサー。アートアソシエイツ八咫主宰。